

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 142



2003.1

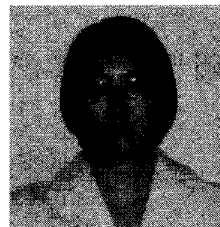
- シリーズ“すばらしい本の世界”
- 研修報告
- セミナー報告
- 新しいデータベース紹介
- シリーズ「！」第10回
- 講演会・展示会報告
- 図書館からのお知らせ
- 図書館の動き
- 開館カレンダー

シリーズ

すばらしい本の世界

すばらしい本の世界

——スタンダード「赤と黒」



人文学部言語文化学科 寺西 暢子

スタンダードの『赤と黒』は、19世紀前半のフランス社会を背景に、立身出世を夢見る野心家の青年ジュリアン・ソレルの冒険と挫折を描いた物語です。小説の最初の舞台となるのはフランス北東部に設定された架空の町ヴェリエール。町の司祭にラテン語の才能を見込まれたジュリアンは町長で貴族のレナール氏の子供達の家教師として、レナール邸に迎えられます。そこで、彼は美貌で純真なレナール夫人を誘惑し、恋愛関係となります。しかし、ふたりの関係はやがて周囲の知るところとなり、ジュリアンはレナール邸を去り、ブザンソンの神学校に入ります。神学校の校長ピラル師はジュリアンの才能を認め、彼をパリの大貴族ラ・モール侯爵の秘書に紹介します。無気力な貴族の青年達に囲まれて、とかく倦怠感に襲わ

れがちだったラ・モール侯爵令嬢マチルドは、情熱的なジュリアンを見初め、ふたりは恋仲となります。マチルドがジュリアンの子を宿したことを知ったラ・モール侯爵は、ふたりの仲を許し、ジュリアンを軽騎兵中尉に任命します。ジュリアンの栄光は頂点に達し、彼は「おれの物語もおわりになった。」と呟きます。が、その時、レナール夫人がラ・モール侯爵に宛てた一通の手紙が彼の栄光を打ち砕きます。即ち、「ジュリアンは、女性を利用して世に出ようとする偽善者である。」という告発です。

圧巻と言うべきは、この告発を恋人から知らされたジュリアンが、一途、ヴェリエールへと駅馬車を駆り、教会のミサに出席していたレナール夫人に発砲するまでの物語言説(le récit)です。物語の内部で経過

する時間は、72時間あまり、それに対して、小説のテキストはわずか1ページ半です。『赤と黒』の物語内の時間を緻密に検討したある研究家は、「パリからヴェリエールへ向かうまでの72時間あまりの間、ジュリアンが冷静を取り戻すことなく、発砲するのは、それまでのジュリアンの性格や行動を考えると矛盾する行為だ。」と言っています。けれど、実際に『赤と黒』のテキストに没頭している読者は、わずか1ページ半に凝縮された物語言説を前にして、物語のテンポの速さゆえに、緻密な研究家が指摘するような矛盾に気づく暇はありません。

レナール夫人に発砲した罪で牢獄に収監され、断頭台に登ることとなったジュリアンは、野心を忘れ、かつてレナール夫人と過ごした甘美な日々の追憶に浸

りながら、晴れやかに死を迎えます。マチルドは恋人の首をジュラ山脈のろうそくで照らされた小洞窟の中に安置し、その首に接吻します。一旦、怪我から回復したレナール夫人はジュリアンの処刑の3日後、子供達にキスしながらこの世を去ります。

スタンダールは「小説というものは読者に徹夜をさせるほど、読者を夢中にさせなければいけない。」と繰り返し書いています。皆さんも『赤と黒』を読んで徹夜してみませんか？

【紹介された本】

スタンダール 『赤と黒』 上・下

<静> 953/St4 開架文庫, 908/Se22/3 閉架和



素晴らしい本の世界

— 想像力から創造力へ —



電子工学研究所 長村 利彦

「あまり読書習慣のない1, 2年生に素晴らしい本の世界へのきっかけを与える」という趣旨の本企画へ執筆依頼を受け、少しでも役にたてればと引き受けました。様々な問題が顕在化してきている現在社会、特に我が国の将来を考える時、各々が明確な方向・ビジョンをもち、科学、技術、芸術、政治、経済などあらゆる分野において創造力を発揮することがますます必要になっていると思います。時間・空間・常識を越えて広い世界を体感できる本に親しみ、さらに「事実」に学ぶことをたくさん積み重ねていくことが創造力を身に付ける最も有力な方法だと思います。皆さんが大学生という最も恵まれた時間を有意義に過ごす一助になればと願っていくつかの本を紹介します。

本に馴染みの少なかった人は、読み出すと引きず

り込まれ止められなくなりそうなエンターテインメント系からまず始めた方がいいでしょう。今ではすっかり伝道師か宗教家のような著作(「蓮如」、「人生案内」、「他力」、「生きるヒント」など)を出している五木寛之氏も10年位前までは、非常にダイナミックな読物を次々に発表していました。初期の大作「青春の門」シリーズは、今と時代は違いますが大学1, 2年生と同世代の話です。「戒厳令の夜」、「風の王国」、「ヒットラーの遺産」、「メルセデスの伝説」、「日ノ影村の一族」などはスケールの大きな物語でゾクゾクしながら読みました。「野火子の冒険」、「ソフィアの秋」、「晴れた日には鏡を忘れて」、「四季・波留子・奈津子・亜紀子・布由子」などはやや女性向き、「逆ハンぐれん隊」シリーズは軽いノリの読み物等々、歴史、地理、

車、人情、政治など身近にはない世界が次々に展開していきます。

最近のエンターテインメント系では、現代社会の様々な問題を取りあげ壮大なスケール、スピード、はでなアクションで物語を展開している楡周平氏がとてもすごい。ごく最近の日経新聞でも日本経済活性化への関所の一つとして取り上げられていた税関の問題を巧みに扱った「Cの福音」に始まり、その続編として圧倒的なパワーでアメリカ社会の暗黒部を描いた「猛禽の宴」、サイバーテロの恐怖を取り上げハイテク社会の地球規模犯罪を描く「クラッシュ」、新興宗教が暴走し日本に未曾有の危機をもたらす「クーデター」、最近話題になっているある国からの超強力生物兵器によるバイオテロの恐怖とCIAの暗躍を取りあげた「ターゲット」と続き、最後には悪の主人公が華々しく滅びる「朝倉恭介」で完結する6部作に正義のヒーロー川瀬雅彦を巧妙に配置し、細部に渡り非常に正確な記述で現代社会の問題を鋭く描き出す手法は見事なものです。どこかでみたような政治家、官僚、利権に群がる人々と、善良な庶民の姿を奇想天外なストーリーでパロディー調に展開する同氏の最近の著作「ガリバーパニック」は、筆者には懐かしい博多弁もたくさん出てきて思わず笑ってしまった究極の物語です。

人の生き方、生き甲斐やトップにたつ人間の姿などを見事に描く城山三郎氏の「男子の本懐」、「粗にして野だが卑ではない」、「勝つ経営」、「花失せては面白からず」、「指揮官たちの特攻」、「男たちの流儀」など、学年が進んだら読んでみるととても参考になると思います。また日常の出来事に対するユニークな見方と鋭い描写力では、山際淳司氏、宮脇俊三氏などがお勧め。常に広い先端分野を科学的に深く鋭く考え、まとめあげる手法は、立花隆氏の一連の著作（自然科学分野では「新世紀デジタル講義」、「21世紀知の挑戦」、「脳を究める」、「電腦進化論」、「エコロジ的思考のすすめ」など）がとても参考になるでしょう。

今年はノーベル賞のダブル受賞という明るい話題で盛り上がっていますが、我が国の産業、経済、社会は、このところいろんな点で問題が顕在化してきてい

ます。大学関係者としては、柔軟な発想で独創的なアイデアや原理を提案し、新しい産業を起こして将来への展望を開いていくことが社会から期待されています。そういう観点から最後に、我々の先輩が戦後の廃墟からこれだけ素晴らしいことをできたことをやや専門だが写真も多くとてもわかりやすく書かれている「電子立国日本の自叙伝」4部作を推薦します。日米の半導体産業やパソコンなどがどのように展開したかについてたくさんの知恵と涙ぐましい努力と人間模様が生き活きと語られています。電子材料・デバイス・システム関係で温故知新の書として、いろんなことを教えてくれると思います。

創造力の泉は、想像力が豊かな人には無限です。広い視野をもって若いうちに身体と知的好奇心をおおいに鍛え、失敗を恐れずいい経験をたくさんしよう。

【紹介された本】

五木 寛之

『蓮如：聖俗具有の人間像』

<静> 188.72/R27I/S 開架新書

<浜> 081/I95/343 浜松分館

『蓮如：われ深き淵より』

<静> 912.6/I91 閉架和

『他力』 <静> 914.6/I91/B 開架文庫

『青春の門』 <静> 913.6/I91/1-12 閉架和

『戒厳令の夜』

<静> 918.6/SH61/72 開架・閉架和

城山 三郎

『花失せては面白からず：山田教授の生き方・考え方』

<静> 331.04/Y19S 開架

立花 隆

『新世紀デジタル講義』

<静> 007.6/SH69 開架・閉架和

<浜> 007/SH69 開架図書

『21世紀知の挑戦』 <静> 460.4/TA13 開架

『脳を究める：脳研究最前線』

<静> 491.371/TA13 開架・閉架和

<浜> 491.37/TA13 開架

『電腦進化論』

<静> 548.2/TA13 開架

<浜> 548.2/TA13 開架

『エコロジー的思考のすすめ: 思考の技術』

<静> 468/TA13/B 開架文庫

<浜> 468/TA13 開架

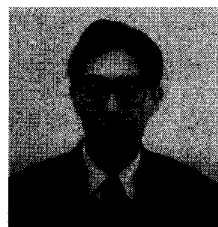
『電子立国日本の自叙伝』

<静> 549.8/A24/1-4 開架

<浜> 549.8/A24/1-4 開架



大型美術本を使おう



情報学部 高松 良幸

図書館にあっても、なかなか手にとられることがない本の代表的なものといえば、美術作品の写真が数多く収められている大型の美術本であろう。

もちろん、「美術なんかに興味はない」という人もいるだろう。また、美術に興味があっても、ちょっと中身をのぞいてみようと思っても、「重い」「かさばる」「高そうな本だから、破いたりしたら大変だ」などと思う人も多いのかもしれない。とかく大型美術本は、重厚で上品ぶったイメージがまわりつくもののようだ。近年はパソコンやインターネットの普及により、CD-ROMやミュージアムのホームページでさまざまな美術作品の画像を鑑賞することができる環境も整ってきた。美術作品の鑑賞もITで手軽に行えるということであれば、大型美術本は無用の長物、図書館の飾り、ということになってしまう。

しかし、近年も、『日本美術全集』（講談社）や『世界美術大全集』（小学館）など、大型美術本の出版は相次いでおり、その役割はまだまだ大きいと思う。

まず、「美術なんかに興味はない」という人、美術本は、美術に興味がある人だけが手にとるものではない。例えば、異なる時代、地域の考え方を知りたいと思うとき、美術本が手がかりとなることがある。ある研究者によると、日本

人に太陽の色は何色？と聞いたら、ほとんどの人は赤と答えるが、ヨーロッパの人々は黄、中国の人々は白と答えるという。本当かなと思って美術本に載っている太陽を描いた絵を眺めると、確かに日本では赤、ヨーロッパでは黄、中国では白で彩られることが多い。美術作品は、異なる時代、地域の人々と我々を結ぶコミュニケーション・ツールなのだ。

また、大型美術本は「重い」「かさばる」「高そう」と思っている人、その分、本に載っている美術作品の写真は、大きくてクリアであるという長所を忘れないでほしい。小さな美術本の写真では不鮮明な部分も、大きな美術本だったら確認できる場合が多い（本物の作品を見ることができるに越したことはないが）。もちろん、上質の用紙を使用していることが多いため、滅多に破れるものでもない。さらに、大型美術本の写真なら、まず上の部分を見、次に下の部分、また上の部分、と自分が見たい箇所を素早く見較べたり、複数の作品の写真を並べて、素早くあちらこちらの部分を見較べたりすることも容易である。しかし、パソコンではなかなかそうは行かない。インターネット上では大きなサイズの画像はまだまだ少ない。また、サイズの大きな画像でも異なる部分を見較べようと思ったら、いちいちマウス操作で見たい箇所をディ

スプレイ上に呼び出さなければならないし、複数の作品の部分比較を行おうとすれば、より厄介なマウス操作が必要だ。

大型美術本は、活用法を工夫すれば、まだまだいろいろと役に立つ。

(情報学部・情報社会学科 助教授)

【紹介された本】

『日本美術全集』

<静> 708.7/N77/1-24 開架大型本コーナー

<浜> 708/N71/1-24 大型本コーナー

『世界美術大全集』

東洋編

<静> 708/SE22/1-17 開架大型本コーナー

<浜> 708/SE22/2(1-17) 大型本コーナー

西洋編

<静> 708/SE22/1-28 開架大型本コーナー

<浜> 708/SE22/1-28 大型本コーナー

研 修 報 告

情報サービス課分館サービス係 前田 勝典

大学図書館職員講習会

11/12～11/15の日程で京都大学において開催され、参加した。全体的には近年の電子資料やネットワーク資料の流通量の増大を意識した、電子ジャーナルや情報リテラシー教育といった講義と、大学改革に伴う図書館のあり方といった講義の2極に分化していた印象だった。今回の講習会では講義での私立大学の事例が参考になった。独法化後の国立大学図書館の今後の姿のようにも感じられた。大幅な組織改革(統合)と業務合理化を実践されているところは大手、中小問わず、多々あるようで、それは時として血生臭い人事の話題に発展することもしばしばらしく、国立も安穩としていられないようである。

総合目録データベース実務研修(目録担当者コース)

11/18～11/29の日程で国立情報学研究所(以下NII)において開催された。お題目は一応目録担当者コースということになっているのだが、目録担当でない参加者の方もいて、意識の差は人それぞれといったところである。現在の目録作業はNIIのシステムに参加している機関であれば、書誌データベースを共同で構築し、データそのものも共有できるようになっている。研修ではそうしたシステム全般の話題、書誌の品質管理、その他プレゼン演習から見学会に至るまで盛りだくさんであった。個人的にとっても勉強になったのが、中国語資料の取り扱いの講義と、事例研究の中の外注委託を基とした共同討議だった。中国語資料はこちらに異動になってから初めて扱うようになったのだが、実にアバウトだったということを決意した。今回の講義で思い知らされた。共同討議は外注の問題を選択したのだが、討議の発表がいまひとつだったのにも関わらず、NII側のギャラリーが一番多く(当然質問も多く)、全体の討論としてはかなり盛り上がった。

3週間連続ということで分館の皆様には大分ご迷惑をお掛けした。この場を借りてお礼申し上げる。

セミナー報告

<卒論・修論を書く人のための情報収集講座を終了して>

平成14年10月15日から31日まで「卒論・修論を書く人のための情報収集講座」を実施しましたので報告します。

この講座の内容は、毎年4月に実施している「図書館利用セミナー」の続編にあたるもので、文献検索を中心にデータベースの紹介と演習、文献の入手法、インターネット情報、図書館の活用法などを案内するものです。

実施回数は17回、参加者は合計88名でした。参加者の7割が学部3年生で、あとは4年生、院生、教官に参加いただきました。ゼミグループでの参加が9回ありました。今年度になって新規にデータベースが導入されたこともあり、ご紹介したいものが多くありましたが、和雑誌の論文索引データベース（雑誌記事索引データベース）、新聞記事索引のデータベースが中心となりました。

アンケートによると、多くの方にこの講座が役にたったという回答をいただきました。また、内容についてもちょうどよいという人が88%でした。実施時期については、8割がちょうどよいと回答していますが、一方では2割程度の人がもっと早い時期にやってほしい、また、内容はものたりないという回答もありました。学部3年生の参加が多かったという結果と思われます。この他、ご意見、ご要望をたくさんいただきましたので、今後、実施時期、実施方法も含めて見直し、できるだけ参加しやすく、役にたつ内容にしていきたいと思います。また、この講座をきっかけに多くの利用者の方に図書館を活用していただくことを願っています。

(レファレンス係)

<浜松分館においても「文献検索ガイダンス」を開催しました>

平成14年11月5日～12月3日までの間で合計13回実施しました。内容は、雑誌文献概論、各種データベースの紹介および検索実習、文献の入手方法などです。参加者は合計89名で、院生が40名、学部4年生が34名、あとは学部3年生、教官、研究生でした。学科により要望が多種多様でしたので、講師が受講生に要望をききながら進めていくというガイダンスとなりました。受講生の皆さんは、特に最近導入された2次資料データベース、電子ジャーナルに対する関心が高かったように感じました。

当日アンケートを実施しましたが、ほぼ全員より「役にたった」と回答いただきましたので、こういったガイダンスは有効であると確信しております。一方、実施時期については、「もっと早い時期に実施してほしい」という意見が大変多くありました。特に4年生は、「4～5月頃に実施してほしい」とのことでしたので、来年は実施時期について見直しをし、よりよいガイダンスが実施できるように考えたいと思います。

(分館サービス係)

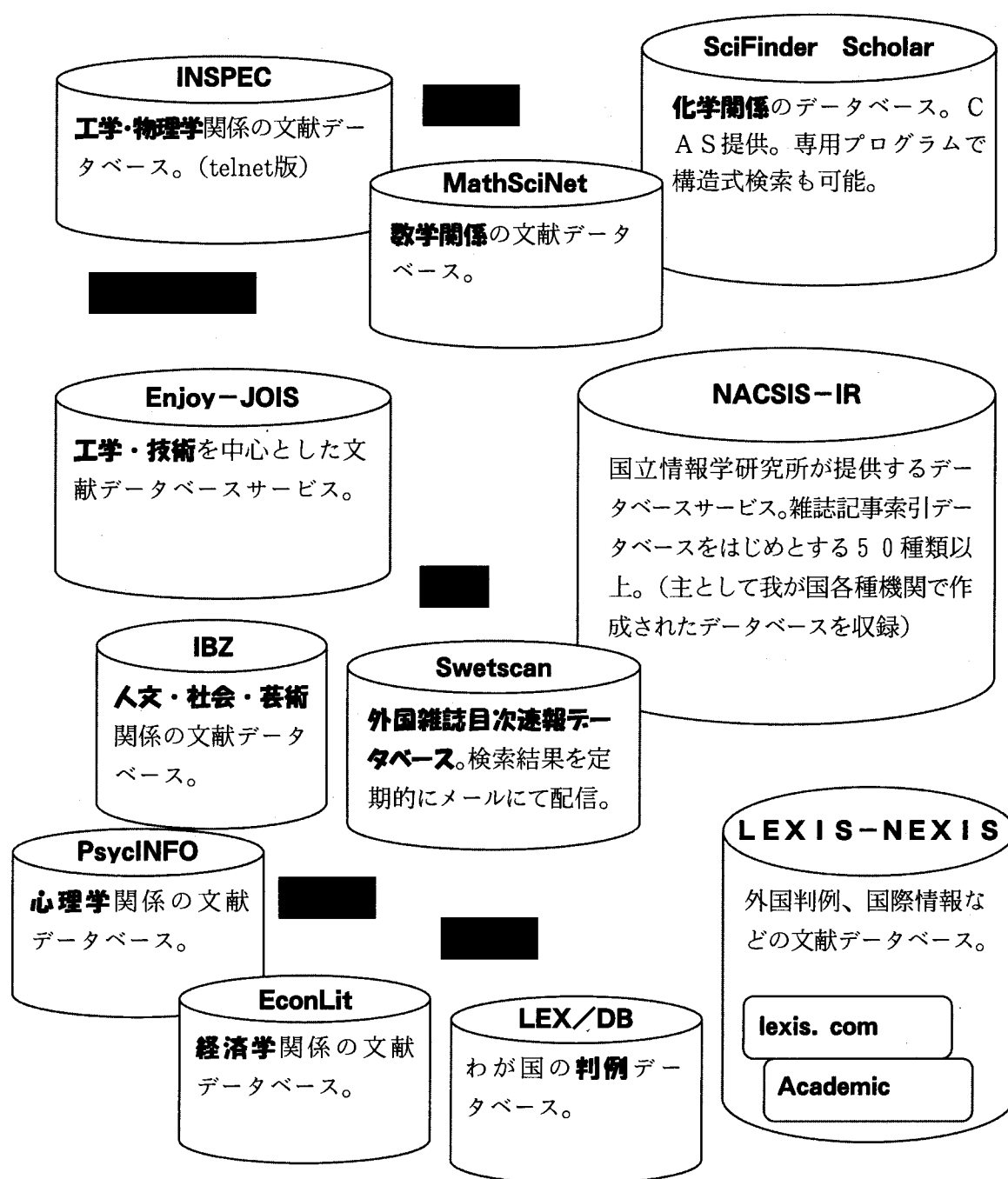


本学で利用できるデータベースをご存知ですか？

平成14年11月現在、学内の端末から利用できるデータベースには、どんなものがあるか、ご存知でしょうか？

もし、ご存知でなかったら、

図書館のホームページ(<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/home.html>)のお知らせ欄をご覧の上、**ぜひ、ご利用ください。**すべてWebブラウザ等を使って利用できます。



シリーズ“！”第10回

図書館で利用できる新聞

今回は図書館で所蔵している主要な新聞のうち、原本以外の媒体での所蔵状況を紹介します。

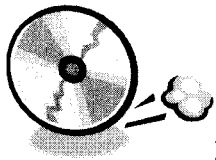
静岡本館

紙 名	媒 体	所蔵年月	所蔵（利用）場所
朝日新聞 復刻版	冊子体	M45～T5年	3F外国語雑誌
朝日新聞（東京）	縮刷版	S17年5月～現在	3F外国語雑誌
朝日新聞（静岡）	マイクロ フィルム	S28年1月～現在	マイクロ資料室
朝日新聞記事データベース CD-HIASK	CD-ROM	1989年～1998年	館内の専用パソコン
朝日新聞戦後50年見出し データベースCD-ASAX	CD-ROM	1945年～1995年	館内の専用パソコン
朝日新聞全文データベース DNA:DigitalNewsArchive	WWW	1984年8月～本日分	館内の専用パソコン
静岡新聞 S22年以降は原本所蔵 （一部欠あり）	マイクロ フィルム	S16年12月～32年12月	マイクロ資料室 （原本は書庫）
中日新聞	縮刷版	S47年1月～現在	3F外国語雑誌
中日新聞（静岡）	マイクロ フィルム	H1年1月～現在	マイクロ資料室
日本経済新聞（東京）	縮刷版	S24年4月～現在	3F外国語雑誌
日本経済新聞（静岡）	マイクロ フィルム	H1年1月～現在	マイクロ資料室
毎日新聞（東京）	縮刷版	S37年5月～現在	3F外国語雑誌
毎日新聞（静岡）	マイクロ フィルム	S52年1月～現在	マイクロ資料室
CD－毎日新聞	CD-ROM	1991年～1997年	4Fデジタルライブラリー コーナー
読売新聞	縮刷版	S37年1月～現在	3F外国語雑誌
読売新聞（静岡）	マイクロ フィルム	H1年1月～現在	マイクロ資料室

浜松分館

紙 名	媒 体	所蔵年月	所蔵（利用）場所
朝日新聞（東京）	縮刷版	S 3 7 年 4 月～現在	最近 5 年分は開架 2 階、それ以前は 書庫
朝日新聞戦後 5 0 年見出しデータベースCD-ASAX	CD-ROM	1 9 4 5 年～1 9 9 5 年	館内の専用パソコン
朝日新聞全文データベース DNA:DigitalNewsArchive	WWW	1 9 8 4 年 8 月～本日分	館内の専用パソコン
朝日新聞戦前紙面データベース	CD-ROM	S 1 年～9 年編 S 1 0 年～2 0 年編	館内の専用パソコン

最近ではCD-ROMやインターネットなどの電子媒体
で検索・閲覧できるものが増えています



朝日新聞戦後50年見出しデータベースCD-ASAXとは？

朝日新聞縮刷版の1945年～1995年分の見出し記事を検索できます。検索のみで本文は収録していません。見出し、掲載年月日の他、縮刷版での記載ページが表示されますので、これをもとに縮刷版にあたる必要があります。朝日新聞縮刷版の記事を検索するためのツールともいえます。



朝日新聞全文データベースDNA:DigitalNewsArchiveとは？

インターネット（WWW）で提供されていますので、速報性に優れており、当日の朝刊の記事まで、全文を検索・閲覧できます。ただし、写真、図表などは表示されません。また雑誌「AERA」「週刊朝日」も収録対象となっているので、これらの記事も同時に検索できます。

※上記2つのデータベースの画面操作などは次号でご紹介する予定です。

図書館公開講演会・展示会『市民に開かれた大学図書館をめざして』開催

11月25日(月)に、静岡大学附属図書館と静岡県大学図書館協議会の共催による公開講演会が静岡大学会館ホールにて開かれました。同時に展示会「富士山の文学資料展」が11月25日(月)から12月1日(日)まで静岡大学附属図書館4階参考閲覧室にて開催されました。

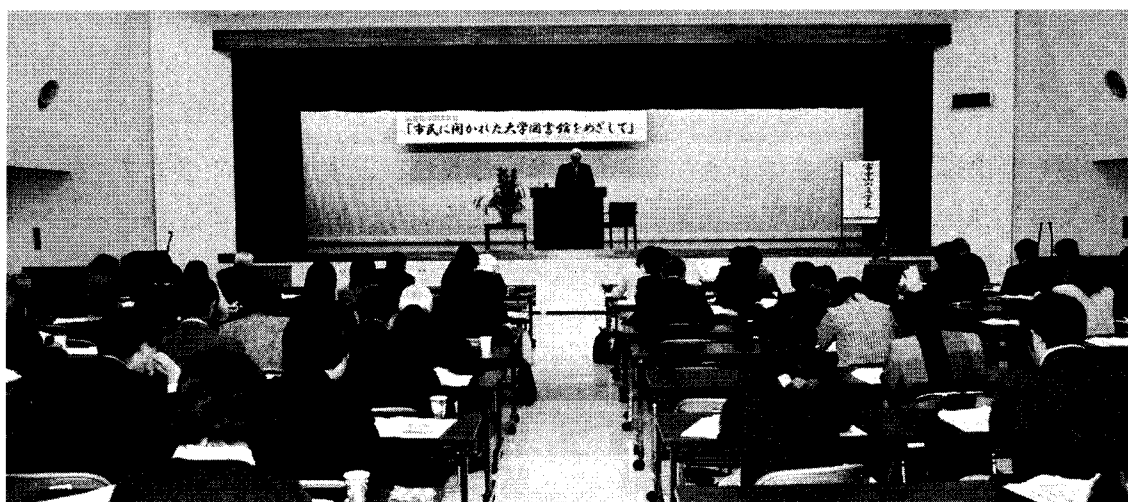
公開講演会は、一般市民をはじめ本学学生・教職員など約100名が参加し、大江静岡大学図書館長の挨拶の後二つの講演を行いました。

元東京大学附属図書館事務部長雨森弘行氏は「図書館ネットワークの形成：大学の社会貢献を進める」という演題で、三重県立図書館長時代に経験した公共図書館と大学図書館という館種を越えたネットワークづくり※を通じて、図書館のあるべき姿について講演されました。

※三重県図書館情報ネットワーク(MILAI)のホームページを参照してください。

URLは<http://www.milai.pref.mie.jp/index.html>

前国文学研究資料館長佐竹昭廣氏の「富士山の文学史：万葉集・竹取物語・謡曲・人穴の草紙」では、富士山の表記方法の変遷の話からはじまり、フレイザーの『金枝篇』(岩波文庫362,02/F45、他に163/F45にもあり)ケレーニ『迷宮と神話』(162/Ke56)などを引用し、人穴(洞窟)が人間界と異郷とを繋ぐ地下通路という話から川端康成『雪国』、そして「これからトンネルを抜けて厭離穢土(厭離江戸)へ行きます」という落ちまでついた楽しいお話でした。



また、展示会にも開催期間中、約220名におよぶ多くの市民や学生・教職員が訪れ、万葉集や竹取物語をはじめ富士山文学の基本的な資料展に、解説を含め大変わかりやすく見やすく工夫された展示会であったとの声が多く寄せられました。

静岡大学附属図書館では10月より本格的な日曜・祝日開館を開始しました。

このような講演や展示会を通じてますます一般市民の皆様へも開かれた図書館となるようにしていきたいと考えております。



図書館からのお知らせ

日曜・祝日開館の本格実施が始まりました！

静岡大学附属図書館では7月から9月にかけて日曜日・祝日開館を試行実施していました。この間多くの方々に利用いただき、「これからもぜひ続けてほしい」というご意見を多数いただきました。そこで、附属図書館では平成14年10月から、日曜・祝日開館を本格的に実施することとなりました。

今後とも、ぜひご利用いただくようお願い致します。

開館時間 9:00～19:00 (土曜日・日曜日・祝祭日)

注意！月～金曜日とはサービス内容が違います。

サービス内容	本館		分館	
	月～金	土日祝	月～金	土日祝
開架図書の貸出・閲覧	○	○	○	○
開架雑誌の貸出・閲覧	○	○	○	○
閉架図書の貸出・閲覧	○	×	○	×
閉架雑誌の貸出・閲覧	○	×	○	×
新聞の閲覧	○	○	○	○
視聴覚資料の閲覧	○	○	○	○
図書の予約	○	×	○	×
出納予約 (夜間主コース学生のみ)	○	○		
書庫の利用	○	×	○	×
デジタルライブラリーシステム(DLS)	○	○	○	○
レファレンスサービス	○	×	○	×
相互貸借 (ILL) 申込・受取	○	×	○	×
CD-ROM検索	○	×	○	○
利用者用端末利用 (本館では4階のみ)	○	○	○	○
Harvest Roomの利用 (静岡本館のみ)	○	×		
国際放送設備利用	○	×	○	○

★ 一般の利用者の方へ

現在のところ、学外の方への貸出サービスは行っておりません、館内での閲覧のみとさせていただきます。

★ 問合せ先

<本館> 情報サービス係

電話：054 (238) 4479 内線：2901・2902

E-mail：lib-infsrv@adb.shizuoka.ac.jp

<分館> 分館サービス係

電話：053 (478) 1391

E-mail：lib-hama@adb.shizuoka.ac.jp

□□□□□□□□ 図書館の動き □□□□□□□□

◆会 議

平成14年度第3回静岡大学附属図書館委員会
平成14年9月26日(木)

○審議事項

- 1. 2次資料データベースの整備・導入について
- 2. 日曜・祝日開館の本格実施について

○報告事項

- 1. 電子ジャーナルに関するアンケート調査結果について
- 2. 2003年度版外国雑誌の購読予定について
- 3. 平成14年度図書館公開講演会及び展示会の実施について
- 4. 図書館本館正面玄関の改修について
- 5. 浜松分館におけるパソコンの盗難について

6. 平成14年度地域貢献特別支援事業の申請について

◆人事異動

平成14年10月1日<転入・転出>

真中 進(図書情報係→浜松医科大学図書課目録情報係長)
小浜 進(浜松医科大学図書課目録情報係→情報システム係長)

平成14年10月1日<配置換>

山川 玲子(情報システム係→図書情報係)
石田 朋子(雑誌情報係→図書情報係)

平成14年10月16日<転入・転出>

石川 護(事務部長→富山医科薬科大学総務部長)
藤森 末雄(名古屋大学附属図書館情報管理課長→事務部長)

2003年1月～3月の開館日程表

本館(静岡)・分館(浜松)

1月						
日	月	火	水	木	金	土
		7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24		26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11		13	14	15
16	17	18	19	20		

開館 平日 本館 9:00～22:00/分館 9:00～21:00 土・日・祝日 9:00～19:00 (本館・分館とも)

開館 平日 9:00～17:00 (冬季休業期間中)

休館

- ※ 臨時の休館日は別途お知らせします。
- ※ 1/18・19はセンター試験、2/25・3/12は入学試験のため休館します。
- ※ 3月21日から3月31日は蔵書点検のため休館します。

● 返却期限日の変更

平成14年12月6日(金)から12月25日(水)までに貸出した図書の返却期限日は、次のとおりです。

平成15年1月14日(火)